

令和4年度上磯高校 学校関係者評価結果

令和5年(2023年)3月16日(木)

●◆委員（PTA役員・学校評議員）による評価・・・上磯高校は教育計画に対し学校としての(表面：取組や運営）（裏面：改善方策）が適性かどうか
< A：十分である、B：おおむね十分である、C：不十分である、D：改善を要する>で評価し該当のものに○をつけてください。
★学校職員による上磯高校としての自己評価の適切さ
< A：適切な評価である、B：ほぼ適切な評価である、C：やや不適切な評価である、D：不適切な評価である>で評価し○をつけてください。
※ 評価欄の数字は、今年度の評価を5点法(A=5点、B=3.75点、C=2.5点、D=1.25点)に換算し、表記した数値です。

学校自己評価の適切さを評価していただきました結果がこちらです。

1 教育活動について

ここでの各評価は、A:十分である B:おおむね十分である C:不十分である D:改善を要する です。

1 教育活動について					有効回答数7		有効回答数8				
ここでの各評価は、A:十分である B:おおむね十分である C:不十分である D:改善を要する です。					委員による 評価	学校職員 による自己 評価	★左記学校の自己評価 の適正さ	委員評価分布(人数)			
領域	対象	今年度の目標	目標達成のための評価の観点	数値目標等				A	B	C	D
教育活動	学習指導	1 学習意欲の向上	・観点別評価、新カリキュラムを定期的に検証するとともに、学習成果発表の場を設定するなど、学習意欲を向上させる取組を実施できたか。	○各教科の探究学習や実技等の成果発表会を各期ごとに実施。	3.9	3.6	4.1	2	6	0	0
		2 ICT活用の促進	・全教員がBYOD端末を有効に活用する授業実践を行うとともに、教科ごとの効果的な活用について研究を進めることができたか。	○授業評価、観点別評価及びICT活用の研修会をのべ3回以上実施。	4.3	3.8	4.2	3	5	0	0
	生徒指導	1 生徒会活動の充実	・生徒会行事のみならず、日常の学校生活を躍動させる取組を、企画・実践・持続する指導を行えたか。	○生徒会企画行事を年9回実施。	3.8	3.2	4.1	3	4	1	0
		2 生徒・保護者との生徒指導の在り方共有	・校則、学校行事等に対する生徒・保護者の意向把握に努め、本校の方針・在り方を再検討し、よりよい生徒指導体制を築けたか。	○校則整備を生徒や保護者へのアンケートを通して前期修了までに実施	3.9	3.8	4.2	3	5	0	0
	進路指導	1 進路実現に向けた意欲の喚起	・「総合的な探究の時間」や「LHR」を有効に活用し、生徒に夢を持たせ、その実現に持続的に取り組ませることができたか。	○学校説明会、応募前職場見学に2回以上参加する意識定着の推進。	3.8	3.4	4.1	2	6	0	0
		2 学年、保護者への情報発信	・生徒の進路希望をよく理解し、実現に向けた支援を学年、保護者が行えるよう適切な情報発信及び助言を行うことができたか。	○各学年ごとの成果発表会と企業訪問の実施。	3.9	3.8	4.2	3	5	0	0
学校運営	開づくられた学校	1 北斗高等支援学校との連携強化	・連絡会議を機能的なものとし、方向性の共有、早期での課題把握など、「協和」実現に向けた計画、具体的な取組を提案することができたか。	○月例の連絡会議実施による課題解決と計画策定により実施事項5以上。	3.8	3.0	3.8	2	4	2	0
		2 市内小中学校、地域への情報発信及び交流活動の実施	・本校からの情報発信のみならず、小中学校との共同の活動や地域行事への積極的な参加により、児童生徒との直接的な交流が図られたか。	○市内小中学校児童生徒との交流事業5以上。	3.9	3.0	3.6	1	5	2	0
	組織運営	1 担当校務の平準化	・今年度教育計画の実施事項、分担者等を前期に見直し、後期に平準化に向け取り組むなど、実効性ある働き方改革を実行できたか。	○前期から後期へむけての改善	3.8	3.6	4.1	2	6	0	0
		2 協働する職員集団の構築【働き方改革を意識】	・校務運営上の調整や課題解決に向け、個々の職員が主体的に取り組むとともに、他の職員と協働し、円滑に校務運営を進めることができたか。	○協働体制の有機的連携により45h/月の超過勤務者数の前年度比50%減。	4.1	3.8	4.2	3	5	0	0
	教員向上資質能	1 研修の充実	・学習評価や新カリ、BYOD端末活用での全体的、計画的な研修と個々の研修還元報告等を組み合わせ、職員の意識を高めることができたか。	○各種研究協議会における研究発表者を年間のべ2名以上。	4.1	4.0	4.2	3	5	0	0
		2 社会性の修得	・教育に関する情報のみならず、社会の動きや課題について職員に情報提供し、高い社会性を有する教員として校務にあたることができたか。	○各テーマごとのミニ発表会実施を3回以上。	3.9	3.6	4.1	2	6	0	0

2 上記1のほか、ご意見等があれば書いてください。

・国際交流等の経験やLGBTQ等を含めた経験が少しでもあると社会に出て違うと思われるのでそういう機会が増えていけば良いと思われる。
・上磯高校の名前を子ども達に知ってもらうために市主催の子どもが参加するイベント等(文化祭、音楽祭、学習体験フェスティバル等)にお手伝いで参加できたりできないのかと思った。そういった機会が増えていって欲しい。
・日頃から熱心に教育、生活指導をして頂き、感謝しております。
・各種検定前には力を入れて指導して下さいありがとうございます。
・学校存続については深刻な問題であると考えます。
・私立高校の授業料無償化制度により、公立高校入学希望者も減っているのが現状とも聞いております。
・上磯高校の良さを知ってもらえる機会があれば、と思います。例えば、近隣小学校中学校との交流など、難しいとは思いますが、...。
・昔のイメージとの意見もありましたので今は違う上磯高校を知ってみたいです。

※ 裏面に、◆改善方策の適正さ評価

							有効回答数8				
領域	対象	今年度の目標	目標達成のための評価の観点	数値目標等	改善方策	◆左記改善方策の適正さ	委員評価分布(人数)				
							A	B	C	D	
教育活動	学習指導	1 学習意欲の向上	・観点別評価、新カリキュラムを定期的に検証するとともに、学習成果発表の場を設定するなど、学習意欲を向上させる取組を実施できたか。	○各教科の探究学習や実技等の成果発表会を各期ごとに実施。	総合的な探究の指導計画をもとに研修を実施し、各教科における探究活動を促進する。	4.2	3	5	0	0	
		2 ICT活用の促進	・全教員がBYOD端末を有効に活用する授業実践を行うとともに、教科ごとの効果的な活用について研究を進めることができたか。	○授業評価、観点別評価及びICT活用の研修会をのべ3回以上実施。	校内研修等を通じて、各教科におけるICT活用の状況を全体へ共有する機会を設ける。	4.5	5	3	0	0	
	生徒指導	1 生徒会活動の充実	・生徒会行事のみならず、日常の学校生活を躍動させる取組を、企画・実践・持続する指導を行えたか。	○生徒会企画行事を年9回実施。	生徒会行事に取り組む視点を学校生活の自律に応用できるよう支援する。	4.4	5	2	1	0	
		2 生徒・保護者との生徒指導の在り方共有	・校則、学校行事等に対する生徒・保護者の意向把握に努め、本校の方針・在り方を再検討し、よりよい生徒指導体制を築けたか。	○校則整備を生徒や保護者へのアンケートを通して前期修了までに実施	校則整備について評価・改善の視点を持ち効果的な運用を目指す。	4.4	4	4	0	0	
	進路指導	1 進路実現に向けた意欲の喚起	・「総合的な探究の時間」や「LHR」を有効に活用し、生徒に夢を持たせ、その実現に持続的に取り組ませることができたか。	○学校説明会、応募前職場見学に2回以上参加する意識定着の推進。	今後も学年と連携して実施していく。	4.2	3	5	0	0	
		2 学年、保護者への情報発信	・生徒の進路希望をよく理解し、実現に向けた支援を学年、保護者が行えるよう適切な情報発信及び助言を行うことができたか。	○各学年ごとの成果発表会と企業訪問の実施。	今後も継続して、説明会・面談等を実施していく。	4.2	4	4	0	0	
	学校運営	開づく かれた 学校	1 北斗高等支援学校との連携強化	・連絡会議を機能的なものとし、方向性の共有、早期での課題把握など、「協和」実現に向けた計画、具体的な取組を提案することができたか。	○月例の連絡会議実施による課題解決と計画策定により実施事項5以上。	本校の行事や取組とのリンク依頼を年度当初から実施し、策定・実施する。	4.4	4	4	0	0
			2 市内小中学校、地域への情報発信及び交流活動の実施	・本校からの情報発信のみならず、小中学校との共同の活動や地域行事への積極的な参加により、児童生徒との直接的な交流が図られたか。	○市内小中学校児童生徒との交流事業5以上。						
組織運営		1 担当校務の平準化	・今年度教育計画の実施事項、分担者等を前期に見直し、後期に平準化に向け取り組むなど、実効性ある働き方改革を実行できたか。	○前期から後期へむけての改善	数値目標を精査し、人事評価定期面談等で実効感を確認する。	4.2	3	5	0	0	
		2 協働する職員集団の構築【働き方改革を意識】	・校務運営上の調整や課題解決に向け、個々の職員が主体的に取り組むとともに、他の職員と協働し、円滑に校務運営を進めることができたか。	○協働体制の有機的連携により45h/月の超過勤務者数の前年度比50%減。							
教員向の上 資質能		1 研修の充実	・学習評価や新カリ、BYOD端末活用での全体的、計画的な研修と個々の研修還元報告等を組み合わせ、職員の意識を高めることができたか。	○各種研究協議会における研究発表者を年間のべ2名以上。	継続発展させていく。	4.2	3	5	0	0	
		2 社会性の修得	・教育に関する情報のみならず、社会の動きや課題について職員に情報提供し、高い社会性を有する教員として校務にあたることができたか。	○各テーマごとのミニ発表会実施を3回以上。							

学校自己評価に係るその改善策の適切さを評価していただきました結果がこちらです。